

研修シートを活用した各教科等の指導と自立活動の指導を関連させた授業づくりの充実 ～小学校の特別支援学級における国語科の事例から～

現状と課題

- 各教科等の指導と自立活動の指導を密接に関連させた指導が十分ではない。
- 肢体不自由のある児童生徒の学習特性を十分に踏まえ、的確な実態把握をすることが課題である。

【H30研究協力校の教員への聞き取りから】

- ・教科の指導に関わる困難なのか、自立活動の指導に関わる困難なのか、区別することが難しい。
- ・学習特性がイメージできない。

目的

研修シートによる学習特性の把握等から、各教科等の指導と自立活動の指導を関連させた授業づくりの充実を図る。

方法

事例を研修シートへ記入し、的確な実態把握を行うことにより、授業づくりの充実が図られることを検証する。

事例 対象：小学校第2学年
(肢体不自由特別支援学級在籍、脳性まひ)
教育課程：準ずる教育
教科：国語科

成果

- 国語科における学習上の困難を各教科の指導目標と肢体不自由における学習特性に分けて把握することができた。
- 国語科における学習特性が他の各教科等や自立活動の指導と関連している点を把握するとともに、自立活動の指導目標及び指導内容を、各教科等の目標との関連を踏まえて見直しを図ることができた。
- 自立活動の時間における指導で身に付けた身体の動きが、運動面だけでなく、各教科等の学習活動を支える土台として、生かされていることが再認識できた。

実践事例

2 国語科における児童生徒の発達段階

2 児童生徒の(国語)の学習状況(何学年相当か)	具体的な学習状況
<input checked="" type="checkbox"/> 当該学年の各教科の目標 <input type="checkbox"/> 当該学年より前の各学年の各教科の目標 <input type="checkbox"/> 当該学級より前の学級の目標及びひねらい	・当該学年の漢字が読め、画数の少ない漢字が書ける。 ・物語の内容を理解し、状況や登場人物の心情を想像し、発表することができる。

2 国語科での困難と背景にある肢体不自由教育における学習特性を整理することができた。

教科における児童生徒の学習上の困難	項目	背景にある学習特性の検討
児童生徒の(国語)の障がいによる学習上の困難	自立活動	肢体不自由教育における学習特性の観点
・鏡文字を書いたり、文の途中で字が抜けてたりすることが多くある。	6区分 4 27項目 (5)	生活経験の不足 表出・表現の困難 学習レディネス形成 感覚・知覚の発達 姿勢づくり(ポジショニング) 呼吸機能、摂食機能の障がい等の医療的なニーズ 肯定的な自己像の形成
・友達同士の話し合いに参加する際、自分の考えを話すことが苦手である。	6区分 3 27項目 (1)	生活経験の不足 表出・表現の困難 学習レディネス形成 感覚・知覚の発達 姿勢づくり(ポジショニング) 呼吸機能、摂食機能の障がい等の医療的なニーズ 肯定的な自己像の形成

□ 「書く」ことに関わって

- ① 感覚・知覚の発達について
- ② 学習レディネスの形成について

□ 「話す」ことに関わって

- ③ 生活経験の不足の内容について
- ④ 肯定的な自己像の形成の内容について

3 授業づくりの充実：自立活動の指導目標・指導内容の見直しの視点の理解を深めることができた。

○ 学習特性と他の場面での学習上及び生活上の課題同士の関連の検討、児童の興味・関心を踏まえて、今、指導すべき課題を見直し、改善を図った。

① 国語科での配慮 「見えやすさ、分かりやすさへの配慮」	交流及び共同学習	② 自立活動の時間における指導 「ボディイメージ、手指や腕の動きの向上」
③ 特別活動での配慮 「互いを認め合う友達関係を作る」	交流及び共同学習	④ 体育科での配慮 「友達と一緒に学習活動に取り組む自信」

↑ 関連 ↓